

【神道文化学部】

小論文試験

解答例（解答のポイント）

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

問 1

（要旨例）

明確な組織形態を維持していくタイプの神道の継続には、氏子・崇敬者の存在は不可欠であるが、氏子と崇敬者の違いは地域住民か否かである。大半の神社は氏子に依存しているが、大きな神社は崇敬者に依存している傾向がある。そして、現在の神社の担い手は、①氏子型、②崇敬者型、③浮動層型、以上の三タイプにまとめられるが、現代社会においては、神社を支える人は、氏子・崇敬者から、崇敬者・宗教浮動層へとシフトしている。

（解答のポイント）

- ・神社とそれを支える人々との関係性が今後どのようなになると考えるか、具体的な社会的拝啓を根拠としてまとめられているか。
- ・文章が論理的であるか。
- ・両者の未来的関係性について述べられているか。
- ・社会的背景を具体的な根拠としているか。

問 2

（要旨例）

かつての日本では、オオサキという人をだます動物の存在が信じられていた。食事のマナーが悪いと出てきて人間の食物のミを食べてしまい、人間は滋養のないカラダ

けを食べることになる。ミとは生き物の生命を意味しており、食事とは他の生き物の生命をいただくことなので、静かに厳粛に食べるのがマナーであることを教える存在だった。また、生糸などを売る際、オオサキが秤に乗って重さを操作するとも考えられていた。流動性のない村社会で貧富の差が生じると人間関係が悪くなるため、人々はオオサキのいたずらで貧富が生じると考えたのである。このように、私たちの世界は目に見えない生命や霊的なものの介入をたえず受けているという伝統的な考え方があった。

(解答のポイント)

- ・オオサキが「ミ」を食べることが説明されている。
- ・「ミ」と日本人の食事のマナーとの関係について説明されている。
- ・オオサキが秤にする行為が簡潔にまとめられている。
- ・なぜ貧富の差をオオサキのせいにする必要があったかが説明されている。
- ・まとめとして最後の一文を引用（活用している）。